

母の日に思ったこと

私の母は95歳。今は、札幌の手稲にある特別養護老人ホームに父（92歳）と共に入所しています。数年前から認知症が進んで、私が訪ねても（最近はコロナのために会えません。）私を誰だかわかりません。昭和2年生まれで、義父（幼い時に養女に出されました）の仕事の関係で、戦前は中国の満州（旅順）で過ごしました。戦争末期はソ連軍が日ソ不可侵条約を一方的に破棄し侵攻してきたので、男装をし、頭髪を丸刈りにし、ソ連兵から命からがら逃げ（隣の部屋まで侵入してきて、捕まりそうになったこともあったそうです）、何とか長崎に引きあげることができた経験をしていました。（今のウクライナの状況を知るとどんな感想をもらすでしょうか？）数年後、保育士になろうと上京し、そこで牧師を志す父と知り合い、新婚旅行を兼ねて青森の藤崎教会に赴任しました。そこで3男1女（私は長男でした。）を授かり、札幌の厚別に移りました。その後、旭川、留萌の教会で、牧師夫人として父を支え続け、父と共に引退しました。

母の思い出は、当時の牧師の家庭は経済的に非常に貧しかった（6人家族で当時の大卒の初任給より低い）のですが、様々な工夫をして貧しさを感じさせませんでした。どんな時でも、子どもの考えを尊重して、味方でいてくれたことです。今振り返ると、私自身が迷走していたにも関わらず、ずいぶん子どもに甘い母親で、

特に高校時代の学校の先生は、私がお迷惑をおかけし、それを懸命に弁護する母にかなり呆れていたかもしれません。でも、息子を最後まで信じていてくれたので支えられ、今でも頭が上がりません。現在はほとんど寝たきりで、起きているか、寝ているのかわからない状態で、たぶん地上と天国を行き来しているのではないかと思っています。



2022年5月17日（火）